

きしねのおみやげ（あまごまみい）

文学作品をみんなでよむということ

松阪市立香肌小学校 中西祐司

【おまげ】

文学作品の楽しみ方にはいろいろあります。作中の人物や世界を知るといったり、未知の知識や世界にふれるといったり、声に出してその響きを感じたり、心で味わったり、文学の授業では、なにより「学級の仲間の人間観や世界観に触れてお互いをより知り合っていく」ということを大切にしたいと思っています。文学作品を読む中で、自分を見つめ、お互いを語り合っていくことによって、何人も的人物像、いくつもの豊かな思想（それは自分の世界であったり、感じたことや考えであったり、丸ごと自分であったり、今そのときの自分そのもの）があったりもします。それを共有する機会がないのではないのでしょうか。

【1年生の取り組みについて】

四月当初から読み聞かせはたくさんしてきました。選書は子どもたちがあまり読んでなさそうなものの中から私が好きなもの、どんな感想をもってくれるのか気になるものを基準にしています。「きしねの窓」「ままはのこき」「とんぼの山猫」「ゼロ弾きの「ローシユ」」というはおもしろいのできてみるか？」といった本を読み、子どもたちは、それぞれの作品の楽しさを味わっていました。

作文や日記は週一、一回ほど書かせ、帰りの会に紹介するおもしろいのできてみました。その中で（たか）のようして、自分の書いたことがみんなに受け入れられ「今までは書くのは嫌だったけど、今は全然嫌じゃなくなりました」と書いて、自分を肯定して抵抗をなくして、おもしろい意欲を持ち出すようになりました。また算数などの他教科でも学習感想を書かせ、自分を振り返ったり、友だちの良さを気付かせる機会を持つてきました。（みお）は算数の感想で「私の考え

を、みんなが読んで聞いてくれるのはとてもうれしいです」と書きました。

文学の授業では、こちらの教材解釈を押し付けることはせず、「いろいろな理由を、自分を出せるような発問をし、文学作品を読んで、子どもたちが何を感じたのか、子どもたちの中に何が生まれたのかを引き出せるように心がけてきました。

【児童について】

山奥の全校六十九名の小さな学校に通う二年生十一人の学級です。寝られぬことを意気に感じ、のせられてはとんとを昇っていく、そんな素直で実に低学年らしい、いろいろなこと一生懸命取り組みたいのである子もたくさんいます。

この実践記録は三月、「スーミー」「お手紙」「スーホの白い馬」という三つの物語を学習し終えてからの、二年生最後の文学の授業です。

【題材について】

多くの昔話で語られるような「狡猾な」存在として「きしね」が登場します。しかし、きしねの言うこと何の疑いも持たない「ひたひ」とは会ってからは「きしね」は変わっていきません。「ひたひ」「あひる」「ひたひ」が話す、自分の評価「親切」「やさしい」「かみね」は、おそろしく嫌われ者であった「きしね」にとっては生まれて初めての嬉しい言葉であり、それを聞いた「きしね」は「ほいっとなり、その評価に恥ええうとがなばります。そして、四を優しく育てるという行動が、自分自身の中にあつた優しさを呼び起こしていきます。ある日、「おおかみ」が下りてきて四を狙いますが、「きしね」は食べてしまはずだった四を守るために「おおかみ」と戦い、追い払います。しかし、その晩にきしねは恥ずかしくて四に笑って死んでしまいます。「恥ずかしくて笑ったのは、きしねの自分自身の評価と」「かみね」といってしまもなく大きい評価との差を自嘲したのでしょう。残された四はお鼻を流して涙を流します。そして「ゆづかん」な「きしね」の心を語り続けるのでしょう。

三人を守るために「きしね」は死んでいっていますが、他者と関わる生かす方を手に入れたのできた「きしね」は、その最期でそれ満ち足りたものとなったのではないのでしょうか。

語り手が「おま」のまる太ってきたせいで「きしね」だけでなへ「読み手」を挑発してのめ

もこの物語の特徴です。

【目標】

「物語の世界を味わい、きつねの心の変容を読み取るなかで、自分なりの思いを持ち、それを表現できる。」

【指導計画】

- 第一時 … 全文を読み。初発の感想「きつねはいつか」と「疑問に思ったこと」を書く。
- 第二時 … 初発の感想の交流。ひよこと出会って、変っていくきつねを読み取る。
- 第三時 … ひよことあひるの出会い、変っていくきつねを読み取る。
- 第四時 … ひよことあひるのうさぎと暮らす中で、さらに変わっていくきつねを読み取る。
- 第五時 … 三人を守るために戦うきつねの姿を想像し、自分の思いをもつ。
- 第六時 … 恥ずかしそうに笑って死んでいくきつねについて考え、自分の思いを表現する。
- 第七時 … きつねは幸せだったのかについて考え、自分の思いを表現する。

【授業の記録】全八回

第二時「初発の感想」

作品との最初の出会いの後には、感想を書かせます。このとき、作品の本質(思想や登場人物の生き方など)に現時点で自分がどう思っているのかという本音のどこを出させるようにしたいと思っています。それにはできるだけ子どもを揺さぶるような課題を与えることが大事です。そうすることによって子ども内面を引き出せるのではないのでしょうか。

今回は「きつねについて思ったこと」「疑問に思ったこと」の二つを課題にしましたが、「きつねは幸せだったのだろうか」という課題の方が、「他者と関わる生き方を手に入れることで変わっていくきつねについてどう思うか」という子どもの人間観をより明らかにすることができたのかもしれない。(読み手自身がある程度見えてくるような出会いを工夫するというのは難しいものです。)

それでも子どもたちの感想には、「なぜきつねは、おおかみの前に飛び出したのだろう。」「食べるつものものをなぜ命を懸けてまで守るとしたのだろう。」「きつねが死ぬのは悲しい

が、それで良かった。生きていたら、ひよこたちを食べってしまうから。」「という」きつねの行き方」についてのところが出てきました。

感想の一部を紹介します。

・「いやまだいるぞ。きつねがいるぞ。」「と行って飛び出したのが不思議に思います。(みお) 狼と戦って死んでから」「ひよこを食べよかっ」と思ったと思います。なぜ太らせたりからひよこをすべに食べなかつたのが不思議です。(るいじ)

・私はひよこやあひるやうさぎを守ったんだと思います。なぜかという点、自分で食べようと思ったのにオオカミにこらわれたらいやだからです。(かおん)

・だどそれでいいわたしは思います。きつねが死んでなかったら、ひよことあひるとうさぎは食べられていたからです。(じゅり)

・うさぎ、ひよこ、あひるを食べる前に死んでしまったので可哀想でした。だけど私はそれでいいと思いました。なぜかという点、生きていたらいつかわからないけど、もしかしたら、途中で食べているかもしれないからです。(まりよ)

・ほくは、なぜ、きつねは、3匹を食べてしまおうとしたのに、命までかけたのかなと思いました。(えいた)

・ほくは、ホンマはきつねはやさしいと思います。ほんまは食べる気はなくて役立てることができたらいいと思っただんだと思います。おおかみがこなかったら死なすんだのに、来たから腹が立ちます。ので一発殴りたいです。こわいけど。(ゆうた)

第二時 三月十五日 「限」初発の感想の交流

きつねはなぜおおかみの前にとびだしていったのか。獲物を横取りされるのが嫌だったのか、それとも守るために戦ったのだろうか。初発の感想であられた、この見方の違い、自分と同じのもあれば、違うのもある、それをみんなで語り合うことによつて、自分の考えが揺れ、一人では見えなかったものが立ち上がってくるのではないのでしょうか。この短い時間でも、まりよはたくさん揺れて、自分の読みをつくっていきましました。

みお 「いやまだいるぞ。きつねがいるぞ。」「言いついて飛び出したのが不思議に思います。

わだしたたりそのままなにも言わずにさっさとくわわていけ

まりよ お父ちゃんは何を聞いていて、「それはあひるをかを自分で食べたかたなりか

ゃつかって」

ゆうた ほへもそれは思いつい

まりよ やけど仲良くなっているから、そういってあひるを、せっかく自分で、おっき

く太らせたり、育てたから、それは…違う気持ちになってきている…

Ｔ きつねはどうして飛び出したんやぞね

しょう きつねがまだ、おおかみの前に飛び出さなかったら、きつねもさあひるもひ

ろも、きつねたちは全員おおかみに食べられてしまつから、きつねはおおかみの前に飛び出したんだと思います。

まりよ それやったら、戦って。。。同じっちゃうの？

ゆうた ほへは、おおかみと戦ってお腹がぺこぺこになったら食べようとしていて、戦ったんだと思います。

Ｔ ゆうたさんは、意見が変わってきたんだね、前には、「きつねは食べるつもりはなかった」って言ってたよね。

ゆうた ああ、そうやった。

まりよ 優しいからって。

なぜおおかみの前に飛び出したかという点、せっかくひろもあひるやうさぎを自分で育ててきて、それでおおかみに全部食べられてしまったら、その育てたがんばりが、全部なくなってしまうから、なんか、おおかみと戦って、おおかみをやっつけて、その後に食べようとしたから、飛び出した。

まりよ 私もあるいじさんと似ていて、おおかみにうさぎたちが食べられたら、きつねも食べようとしていたのに、食べられてしまったら、また腹ペコになるのさ、えっ、お

おかみに戦って、食べようと思って、飛び出したんだと思います。

私が思ったことは、おおかみに、そのまま、なんか住処の中においたら、一緒に、なんか、食べられてしまつから、きつねも食べるつもりだし、せっかく育てたのを

食べられるのは、きつねも嫌だから、いっそ戦ったほうがいいと思って、出て行っただんだと思います。

Ｔ いま意見が多かったのは、自分が食べようと思っていているものを、横取りされるのが嫌やっというの。かおんさんのは横取りされるのが嫌と言っているのか、それとも三匹が殺されるのが嫌と言っているのか、よくわからなかったんだけど、さっ、横取りされるのが

かおん 僕は愛えて、ひよこをあひるを育ててきて、えっ、守ろうとしていた。

ゆうた 僕もゆうたさんと同じで守ろうとしていて、せっかく育ててきたものを食べられたら、パーになったちゃうので、そのために戦った。

Ｔ ゆうたとは違うね。えいたは自分が食べたいから、食べられたくない。だから戦ったっていうんやね。

えいた 違う違う。

まりよ えっ、それやったら言い方がおかしい。

ゆうた 言い方がおかしい。
パーになるって、それなら横取りと同じやん。

えいた ああ違う。言い方が違って、あの、せっかく育ててきたから、みんな食べられたくないから、あの、自分で戦ったと思います。

Ｔ 食べるというよりは、守るために戦ったっていうんやな。

まりよ 私は最初は横取りされるのが嫌だった気持ちだったと思うけど、だんだん、なんか、守らなかんって思って、最後の方は守ろうとして戦ったと思います。

みお あひるたちに、神様みたいなお兄ちゃんとか、優しいお兄ちゃんとか言われたので、こんな優しいあひるたちを食べられたら嫌やと思って、戦ったんだと思います。

Ｔ あと一人くらいどうも意見は詰まってしまったかな。じゃーの場面読んでくれ

読み深め。ひよこと出会って変わってきたきつねを読む。みんなで読むこと、語り合うことを通して、作品世界の人物やできごとの意味やイメージを創り上げていきます。それをおろそかにしたのでは、読み手(子どもたち)の中に作品が象をあらわさない、作品として立ち上がらないと思います。ここでは、「きつねは、ひよこに、それはやさしく食べさせた。」の一文だけからも二人の生活の様子を立ち上げていく子どもたちの様子をみてください。

T 「ほつっとなった」「じつじつ思う？」

まりよ 優しいって言われたの初めてやったから、言われたことなかったから、このきつね
たか ちよっと嬉しそう、初めてやったから、

えいた けど恥ずかしかったんとちゃう？

T なるほどなるほど、次も読んでくれる？

T 落ち着け落ち着けて、きつねは今どんな感じなんだろう？

C 待ってくれ待ってくれ

るいじ 違う。なんかさ、初めて優しいって言われたもんで、なんかほつっとなって歩いたら、下も見やんと歩いたらもんで、切り株に躓いて、転びそうになったと思います。初めて言われたやつやもんで超嬉しかった。やったーって言いたかったんだけど、ひよこがおるもんで言いにくかった。

まりよ 生まれて初めて、ありがとうとか、優しいねって言われたって言うけど、じゃ本当は優しくなかったのとか、思われると思うから、ひよこに言われへんかったけど、初めて言われたからほつっとなって、なるほど、じゃその続きを読んでくれる？

→ きつねの姿が動き出す。

T 「それは優しく食べさせた」「と」優しく食べさせた「でほつっ」
えいた 違う

まりよ それは、ほつっというの、ほつっって

ゆうた うまいこと食べさせた

かおん それは、って書いたら、すんごい優しく食べさせたって感じになる。

T どんな感じじゃろな？

えいた 何欲しい？何欲しい？あーん (食べさせるマネをする子どもたち)

T そんなことをしてもらうからひよこは、優しいお兄ちゃんって言うんやな。それを

聞いたび、きつねはどつなるとや？

C ほつっとなる。

まりよ 優しいお兄ちゃんかあって、自分で何か言ってる。

るいじ 何にも見やんと、ひとりでに考えとったから、切り株に躓いたり、

T じゃ今から相談してもらいたいんだけど、このときのきつねの気持ちってどんな

なんやろ？ひよこを連れてきて、いっぱい食べさせるとんやろ？一回食べただけで

太るか？

まりよ もっといっぱいいっぱいば

T そうやな何遍もやな、だから、これは一日二日の話ではないわな。ひよこを連れて

きてからのきつねはどつやろな？じゃ相談してみて

※ 考えに詰まりそうなき、自分の考えに自信が持てなさそうなきに、隣同士や近場で話し合いをさせ、発表につなげます。また、これは全員に思いを表現できる場を保障するためのものであります。

(この二人はこんな相談をしていました。)

えいた 苦労したんとちゃう？自分も腹ペコやったんやし。

ゆうた きつねって包丁使えるん？

えいた そりゃ使えるさ、登場人物なんやもん。でも今はその話じゃないやろ。

えいた きつねは最近うまいもん、肉とかを食べてないから、肉食べたいなと思って、

はい食べさせて、太った肉を食べたかったんだと思います。

まりよ きつねはひよこに優しいお兄ちゃんって言われて、嬉しくて、優しく食べさせて、

それで毎日毎日するわけね、はじめはひよこもって優しく食べさせていたと思ひます。
まじなはひよこのひよこが起きる間は、ひよこの言いつつおりにして、ひよこの

寝る間に「飯を食べたりして、ひよこのなな、遊ぶ時間は時間を長くしたりして、
ひよこの親切なやつをしてたりしたと思ひます。」

みお 初めてひよこに優しいお兄ちゃんって言われたので、その優しいところをひよこに
見せてやりたかったから、とても優しく食べさせたんだと思ひます。

Ｔ 優しいと言われたから、もっともっと優しいところを見せたい。なるほど。
かおん えっと私は、ひよこを育てるのにすごく苦労したと思ひます。どんな風にかと言

て、「一日ひよこに「飯を食べなす、食料がないから、採りに行ったりしてなんか、
忙しくて、ずっと、遊ぶ時間も多から、えっと、すごくひよこにこき使われ、
こきじゃないわ、世話して、ひよこが夜になって寝ている間に、「飯を食べたりし
ていたんだと思ひます。」

まりよ じゃすいきつね忙しかったんや

えいた けど、ここで一緒に「飯食べとったんや

まりよ うん、きつねの分あるや

みお うそ？

ゆうた おかわりの分じゃない？

Ｔ あっ自分が食べる分じゃないかもしれないって言うんやな、ゆうたは。

るいじ ひよこがおかわりするまで…

まりよ けど、ひよこの隣に、「コップ…

Ｔ でも挿絵はあまんさんが書いてるわけやないで、絵はつかが答えじゃないんだけど、
これは違う食べものやね。サラダとシチューやね。話が違う方に行ってきた。ほか
に誰かどう？えいたさんが言ったのは、もう食べたいってだけやな。

えいた 最初の方はそつやっただけど、後のほうは。

Ｔ それ教えてよ

えいた 初の方は食べたいってだけやけど、後の方は守った。

Ｃ ?

Ｔ 守った？ひよこを連れてきてからのまじな話やで。

※挿絵を見ている

みんなで読む文学の授業で
すから、挿絵からイメージ
をつくるより、自分たちの
読みから場面や世界を立
ち上げたいと思ひます。

えいた 最初は食べてやるって頭の中で考えていたけど、なんか食べさせているうちに、
こんな優しいって言ってくわるから、守ったいたほつがええんかなあって、育て

いたほつがええんかなあって、思ひつうになった。

Ｔ なるほどね。最後、「ひよこはまるまる太って、「ひよこ」って思ひます。」
るいじ なんか企てな？

しゅう 心の中で食べたいと思ひているんだと思ひます。

まりよ 語りの

Ｔ でも、ここで、語り手の言葉なな、きつねの思ひじゃないんやな。

まりよ まあでも、きつねもさういう気持ちもあるけど、食べたいって気持ちもあつたけど、
やっぱり初めて、優しいとか言ってくれるひよこだから、せつたい食べるのはどう
かなと思ひたりもしたと思ひます。

ひよこの後を不安そうに、さうとつけるきつねと
そこで出会う瘦せたあひるを読む。

二の場面 音読

Ｔ きつねはさうとついていった。

ゆうた 音も立てずに、さうとどろぼうみだいに

しゅう ひよこに気付かれないようにゆっくりついていったんだと思ひます。

まりよ ひよこに行き先を聞いて、それでちょっと行った後に、さうとさうとついてい
ったんだと思ひます。

Ｔ なんでさうとついて行くん？

相談

れんじ なんてついて行ったかと言つと、ひよこが逃げてくんかもしれないから、だからそ
おとついで行つたんだと思ひます。

Ｔ 疑つてるんやな。

かおん さうとついて行かないと、なんか、ひよこが走って逃げてしまつと思つたから、
さうとついて行つたの、ゆっくの逃げられるから、ひよこの調子で行けば様子が
分かると思ひつて、さうとついて行つたんだと思ひます。

まりよ 私は散歩に行ってる間に、えっと逃げの気かなと思っただけで、もうこれは、他の狐とか狼に食べられるかも心配だったから、行ったし、逃げる気かなと思っただけでいい。

T なるほど、疑って逃げてたわけじゃないかしたろって考えていたフランス守ったという気持ちもあつたっていいじゃない。

まりよ 自分が食べたいから。

T もし、そうって聞いていくときに、逃げようとしていたらどうしていいですか？

かおん 多分待った！

しゅり 捕まえに行くと思います。

ゆうた 僕も網とかを持って捕まえに行くと思います。

かおん もし逃げそうになったら「ちょっと待って、ここ行くの？」って止めると思います。

えいた 同じ

たか 僕も似ていて、逃げそうになったら「ちょっとちょっと、ここ行くんだよ？」って

T で、結局そうだったの？

まりよ でも、そうじゃなく、

T 逃げやんだんやな。

C 春の歌なんか歌いながら・・・(作り歌を歌い始める)

T このひよこを見て君ははやく思いつくような感じに見えます。

C うんうんうんうん、楽しそう

まりよ きつねの食べようと思っただけから、なんかすごい楽しそう。わあい、散歩に行けるって。

るいじ もし逃げられたら、

C うんうんうんうん

るいじ なんか涼しいし、気持ちよかったと思います。気持ちいい感じが、楽しいと思えます。

たか なんか楽しそうで、なんて幸せなただろうって思っています。

ゆうた たかさんと同じで、楽しそうに歌っています。

しゅり 楽しそうに歌っていたと思います。

T そうして、またなんか起きるかな？

しゅり やせただあひるが歩いてきたって。

T どんあひる？

えいた 痩せたあひる

T 痩せてるんやな。痩せたあひるっていつ？

まりよ なんか元気なぞう。

C ガリガリや。

ゆうた 何にも食べてないって感じ。

たか 助けて、

まりよ やけど、ひよこはまるまる太ってるから、なんでひよこはそんなに太ってるんかな

あつて。

ゆうた 気になる。

T ひよこはまるまるしてるし、なんか楽しそうやし、幸せそうな感じなんやな。そこガリガリに痩せたあひるがやってきたってところで明日また勉強しよう。

第四時、三月十六日

ひよことあひるの違いを読む。これはこれまでのきつねへの見方、ステレオタイプなきつね評と信じ頼れる存在であるというきつね評という二つの見方を対比させることです。きつねがどういふなかで生きてきたのかということにもつながります。

※ 前日に、なぜ、ひよこは怖がらずに「きつねおにいちゃん」と言えたのかなについて話し合いをしています。

T ひよことあひるははやくと離れたいね。ひよこは怖いおにいちゃんだったよ。

ゆうた 痩せて、

まりよ きつねお兄ちゃんって普通に言った。

ゆうた 怖くなかったみたい。

たか 普通に、きつねお兄ちゃんって

T 昨日みんなが言うつたのは、きつねが優しいそうに見えたっていうのもあったし、

きつねがどんなものか知らなかったんだけど、どんな人かかってのは知らね。

まりよ きつねの名前は知ってるとけど、どんな人かかってのは知らね。

T あひるはだういふ？

まりよ あひるは知ってるとよ。

C とうんでもないがらうて。

T なんてわかった？

ゆうた ひよこが「あむわよ、きつねお兄ちゃんちよ」って言ったから、あひるは狐を知っ

てるから、「がらうてよらわらわら」って。

かおん えっと、ひよこはその前できつねが優しく見えて、きつねお兄ちゃんって言ったけ

ど、あひるは、そのきつねを見てないから、多分、凶暴な狐に、普通の狐を、イタ

スラ好きの狐に思えたんだと思います。

まりよ ひよこはそんなにきつねは優しいと思って、「優しい」とか言ってたけど、あひるは

多分仲間とかが狐に食べられたかなんか見たんだと思います。

ゆうた え、

まりよ 見たか、食べられそうなくを逃げたとか。

T そやな、君らは動物に食べられるってことはないけど、人喰いザメとか人食い熊が

おったら怖いわな

C うん

るいじ 初めて鮫を見たら、鮫、鮫って近寄ってくかもしれん。

T 知らんだらいくかもしれんわな。

まりよ 知らんだら、

T やから、とうんでもないって言うんやな。やけど、ひよこはなんて言うん？

C 「うん。」きつねお兄ちゃん、とってても親切なの「

T で、あひるはだういふ？

C それを信じて行ったん。

T そこじか台詞はないけど、その言葉だけで信じたんかどつかはわからんけどねえ。

じゃ、実は今台詞に出てきたのは、あひるとひよこだけやな。でも本当はもう一人
おるんやな？

C きつね

T きつねはどこにおったん？

まりよ 木の陰

T じゃそこを讀んでもらおうかな。

音読

ひよことあひるの会話を聞くきつねを読むことから、忙しそうにくるくると働き
ながらも、どこか満足そうな様子のきつねが子どもたちの中でさらに動き出して
きました。

T うっとりとしたってどついうこと？

ゆうた なんかぼつとなつて…

まりよ 言われて、優しいとも言われたし、親切なんて言われたから

T まりよさんは親切と言われたからって言うんやね。じゃ、なんできつねはうっとり

としたんだろ？

えいた 初めて

ゆうた 初めて言われたから

まりよ 初めて親切だつて言ってもらえたから

ゆうた 生まれて二回目や

T 優しいって、まず言われとつたんやな。優しいとは何度も言われとつたんやつたっ

け？

みお 言われてない。

まりよ ひよこに言われるまでは言われてない。

T なんて書いてある？探してみて。

かおん きつねは生まれて初めて優しいなんて言われたので、

T じゃ、親切っていう言葉は今まで言われたことあったんやうつかあ？

C ないー

えいた ここで生まれて初めて言ったんやで... ええ言葉をここで初めて言われた、だから

この言葉も初めて

T なまほごな、優しいにひやく使てい言葉なまやから、こわも多分言われてないだろ
うと。そうかもいわね。で、言われて嬉しかったって言うことだけな、それ
ってきつねのどんなにこらから分かるの？

しゅり それを陰で聞いたきつねはうっとりした。

T うんそうやね。ほかはどっ

みお 初めて優しいなんて言われたので少しほっととなった。

C ん？今は親切

まりよ 「親切なきつね」という言葉を五回もつばやいた。

えいた 同じです。

T みんなも五回つばやいてみて。これはやっぱり嬉しいんやろねえ。これ五回もだよ

まりよ すごく嬉しいちゅって

T 五回も多分ってことやな。じゃ、きつねはどうしたん？つばやいただけで終わり？

たか 急いで家に帰った。

T 何じに家に帰るん？

かおん どうして急いで帰ったかというと、ひよこが一人で散歩に行っているのに、家にき
つねがおらなおかしいと思われるし、それに、なんか陰で聞いていて、あひるが来

るってことになったから、よっしゃーと思って、急いで家に帰ったんだと思います。

えいた 早く家に帰って、いっぱい食べさせて、優しいとかいい言葉を言われたかったから。

るいじ わざと言われたいの？

えいた うん

ゆうた 僕は親切と聞かれて、そのままあひるを連れて帰ってくるから、なんか用意とか

な、食べるものを用意とかかなだめやから、だから急いで家に帰ったんだと思いま
す。

みお きつねは多分、あひるを食べたかったから、いっぱい料理を食べさせて、太らせて、
食べたかったから用意をして、大急ぎで、するために急いで家に帰ったんだと思

ます。

みおはこのときは、まだ、きつねは食べる列でいたと思っただけです。

まりよ 私はえっときつねは、ひやく「親切なきつね」と言われて、あひるも信じてく
れたから、えっと、まっ親切にして、優しいにして、まっ言われたら思っ

だから急いで家に帰って、馳走とかいっぱい作ろうとしたんだと思っ
ほうほう。今出てきたのは3つの種類があったね。一つ目は散歩に付いて来たの

T は内緒にしているんだな。それがばれたらアカン。

えいた ばれたら、絶対食べられるとかなんか企んでるって思われ

まりよ どっこい

T 不安を与えてしまっってことやな。

まりよ で、またあひるも、えうって思ってしまっ

T なるほど。二つ目の一番多かったのは、親切って言われたのだから、もっともっ

親切にして、本当に親切なんだってところを見せたいんやう

まりよ それで油断させて、食べるとか。えへへ。

T 三つ目が食べるつもりやう。どうやろねえ。

「きつねは ひよことあひるにそれは親切だった」とあって、それはって何

えいた 超親切。最も親切。

まりよ すごく親切ってこと。

えいた すごくすく、もうすくっていう、言えんべいさす

ゆうた 僕はなんか、食べさしたり、それくらい優しく感じる

T 普通の親切ではない。物凄いなだね。それで、ひよことあひるの二人は親切なお兄

ちゃんの話をするわな。それを聞いておわな、あ、きつねは、きつねはまだ、

ほうつとなる。

T では、あと五分でこのきつねに思っことを書いてあげたい